

156th Tenri Gallery Exhibition / Ceremonial tools of Bronze

天理ギャラリー 第156回展

青銅のまつり

—光と音の幻想—

2015年

10月2日(金)～11月28日(土)

◆開館時間 午前9時30分～午後5時30分
(入館は午後5時まで)

◆休館日 毎週日曜日

◆入館料 無料

天理ギャラリー

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-9
東京天理ビル9階 TEL 03-3292-7025

青銅のまつり

—光と音の幻想—

紀元前三千年頃、メソポタミアや中国で青銅器の生産が始まり、本格的な金属器の時代が到来します。中国の青銅器文化は東アジア一帯に広がり、わが国に青銅器が伝わるのは、弥生時代の中期初頭、今からおおよそ二四百年前のことです。

日本の青銅器には銅鐸、銅矛・銅戈・銅剣などの武器、鏡などがあります。これらの青銅器はほとんど国内での生産が始まり、主に五穀豊穡やムラの安寧を願うまつりの道具として普及します。

今回は当館所蔵の弥生時代から古墳時代にかけての音の出る青銅器を中心にご覧頂きます。また、日本の青銅器の源流である中国・朝鮮半島の関連資料、銅鐸との類似性が指摘される中国南部地方の銅鼓など、海外の資料も合わせて紹介します。

今、目にする青銅器は緑青に覆われてくすんだ緑色ですが、作られた当時は目も眩むほどに輝いていました。まつりの場で振り鳴らされる銅鐸や鈴鏡の煌めきとその音色は、人々に驚きとともに畏怖の念をかき立てる舞台装置として、まさに絶大な効果を発揮したことでしょう。

青銅器をとおしてまつりの場に臨んだ古代人に想いを馳せ、その芸術的ともいえる造形と文様の美しさをご鑑賞下さい。



冷水冲型銅鼓



三鈴杏葉



五鈴鏡



銅鈴



饗養文鉦



流水文銅鐸

※会期 2015年10月2日(金)～11月28日(土)

※ギャラリートーク

10月2日(金) 午後1時30分～

天理参考館学芸員が展示解説致します。

※講演会 10月24日(土) 13:30～15:00

「銅鐸と銅鼓」

講師 天理参考館学芸員 高野政昭

天理ギャラリー

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-9

東京天理ビル9階 TEL 03-3292-7025

◇開館時間 午前9時30分～午後5時30分

(入館は午後5時まで)

◇休館日 毎週日曜日

◇入館料 無料



URL <http://tokyotenrikyokan.co.jp/gallery/>
<http://www.sankokan.jp/> (天理参考館 HP)

交通 JR / 神田、メトロ / 神田・新御茶ノ水・淡路町、都営地下鉄 / 小川町